

温故知新

静岡県立中央図書館所蔵の貴重書紹介(1) 平成12年5月23日

明治初期の啓蒙書(その1)

学問のすゝめ(002/フク)

福沢諭吉(1835~1901)は、近代日本の思想家のなかでも、最も有名な人といっていいでしょう。『学問ノスゝメ』とか『文明論之概略』とか、さらには『福翁自伝』といった書物は、今日でもなおよく読まれています。

とりわけ『学問ノスゝメ』は「天は人の上に人を造らず人の下に人を造らずと云へり」という冒頭の文章でよく知られ、近代日本の思想の象徴として教科書にも必ず取り上げられるほど有名です。古い封建制度の考え方、制度、慣習などを一掃し、西洋近代国家の精神を国民に知らしめようとする福沢の熱意と抱負が、さまざまな切り口から平易な言葉で語りかけられており、数多い福沢の著作のなかでも当時の国民へ与えた影響という点で重要な著作の一つです。

『学問ノスゝメ』は、はじめからまとまった一冊の書物として出版されたものではありません。明治4年(1871)福沢は故郷の中津(今の大分県中津市)に学校が創立されるのを機に、そこに学ぶ少年たちに新時代の国民の心得るべき根本精神を教える読本を書きます。周囲の人々は、<広く世間一般の人々にも読んでもらった方が一層有益だろう>と福沢に薦めそれに従って慶應義塾から出版したのが『学問ノスゝメ』でした。はじめは初編(初編のみ小幡篤次郎との共著のかたちをとっている)だけの予定で公にしたのですが(明治5年2月)予想外に人気を生み、福沢も乗り気になって次々に書き継いでとうとう17編に達したのでした(明治9年11月)。その後『合本学問之勸』として一冊にまとめられました(明治13年7月)。

『学問ノスゝメ』は当時の大ベストセラーになりました。福沢自身の言葉によれば初編は20万部、偽版を含めれば22万部、さらに全体では推定340万部が読まれたといえます。

当館は逐次刊行された初編から17編までをすべて所蔵しています。いずれも1冊が十数ページの和綴本で、本というよりはパンフレットといったほうがぴったりするものです。

また、明治13年に出された『合本学問之勸』(002/フク)も所蔵しています。こちらは全310ページの黒いハードカバーの表紙をもつ洋装本です。

【参考資料】

『福沢諭吉全集』第3巻(081.6/フ1)

『学問のすゝめ』(080/113 岩波文庫)

『「学問のすゝめ」講読』(370/223)

『日本の名著(33)福澤諭吉』(081/100)